実践3

兵庫県立相生高校

1学年独自の活動とともに、全校で情報を共有しながら授業や定期考査を改善

兵庫県立相生高校では、2018年度、1学年団の教師全員で指導の目線を合わせ、探究学習の推進、授業や定期考査の改善、英語4技能の育成、ポートフォリオの蓄積といった教育活動に取り組んできた。その過程で、グランドデザインを作成し、組織的に取り組む体制を整えている。

市への提言を目指した探究学習で主体性や協働性などを育む

地域の進学校として、多数の国公立大学進学者を輩出する兵庫県立相生高校は、2015年度の県内公立高校の学区再編を機に、地域の学力上位層が他地域の高校に進学する状況が続いている。西茂樹校長は、生徒の様子を次のように語る。

「生徒たちは、真面目ですがおとなしく、主体性を高めることが課題でした」

18年度を迎えるにあたり、18年2月に外部講師を招いて大学入試改革などの最新情報を共有する校内研修を実施。そして、必要な改善策について全教師にアンケート調査を行い、その結果を共有。18年度1学年を中心にそれらを実践していった。

新しい取り組みの1つが、「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）における探究学習だ。「わがまち相生探究活動」と銘打ち、地域のよさをアピールするCMを相生市に提言することを目標とした活動を行った。1学年主任の荒内秀明先生は、その背景を次のように説明する。

「本校の総合学習は、それまで進路学習が中心でしたが、探究のテーマを自分の将来に結びつけながら学びを深めさせ、主体性や協働性を育みたいと考えました。そうした折、相生市から高校生の意見を市政に取り入れたいという申し出がありました。自分とかかわりが深い地域の課題を探究のテーマとすれば、生徒の意欲が高まりやすいのではないかと考えました」

活動の流れは、**図1**の通りだ。医療、子育て、観光など、関心の高い分野ごとに生徒を学級横断の形で5人1グループとし、8グループにつき1人の教師が担当についた。そして、相生市職員から市の特色や課題

兵庫県立相生高校

◎校訓は「自律　創造　敬愛」。兵庫県教育委員会「理数教育等学力向上重点指定校」として、自然科学コースを中心とした理数教育の充実、国際理解教育の推進、表現力を高める取り組みに力を入れる。企業や大学など、地域と連携した活動も盛ん。
◎設立　1977（昭和52）年
◎形態　全日制／普通科／共学
◎生徒数　1学年約200人
◎2018年度入試合格実績（現浪計）国公立大は、京都教育大、神戸大、兵庫教育大、鳥取大、兵庫県立大などに51人が合格。私立大は、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大、甲南大などに延べ371人が合格。
◎URL　https://www.hyogo-c.ed.jp/~aioi-hs/

校長
西　茂樹
にし・しげき
教職歴35年。同校に赴任して2年目。

英語科主任、総務広報部長
岸本由樹
きしもと・ゆき
教職歴32年。同校に赴任して5年目。英語科。

進路指導部長
桑田卓郎
くわた・たくろう
教職歴31年。同校に赴任して7年目。地理歴史・公民科。

1学年主任
荒内秀明
あらうち・ひであき
教職歴29年。同校に赴任して2年目。数学科。

1学年担任
山本一芳
やまもと・かずよし
教職歴22年。同校に赴任して1年目。理科。

＊プロフィールは2019年3月時点のものです。

などの説明を受け、一人ひとりが探究したいテーマと理由を書き、それを持ち寄ってグループで議論し、1つのテーマを設定した。1学年担任の山本一芳先生は、こう述べる。

「テーマ設定は、探究学習の中でも難しいプロセスですが、まず1人でしっかり考えさせて、それを基にメンバーと議論し、より具体的なテーマにしていました。探究しにくいテーマを選ぶグループもありましたが、壁にぶつかることも学びと捉え、生徒の考えを尊重しました」

次に、探究するテーマについての調べ学習を行った。その際、生徒に「主張には根拠が必要だ」と繰り返し伝え、表面的な主張にならないように意識させた。そして、探究したテーマに関する提案をポスターにまとめ、担当教師ごとのグループでまとまって発表。評価は、生徒と教師、相生市職員が「アドバイスシート」に記入して行った。発表に対して寄せられた意見を踏まえてCMのシナリオを作成し、19年2月に紙芝居形式のCMを発表した（**図2**）。

「ポスター発表を経たことで伝えたい内容が精選され、CMでの表現方法がどのグループでも工夫されていました」（山本先生）

19年3月には市長を招いた全体発表を行い、ポスターとCMそれぞれの優秀作品が表彰された。

「学級横断のグループとしたので、あまり知らない生徒同士がメンバーとなりましたが、そうした中でも1つの目標に向かって自分の意見を主張し、力を合わせて取り組んでいました。今後の課題は、生徒が到達目標のイメージを具体的に持てるよう、ルーブリックを作成することです」（山本先生）

生徒が主体的、協働的に活動し、それを振り返る機会を充実させることで、生徒の姿勢は変容しつつある。

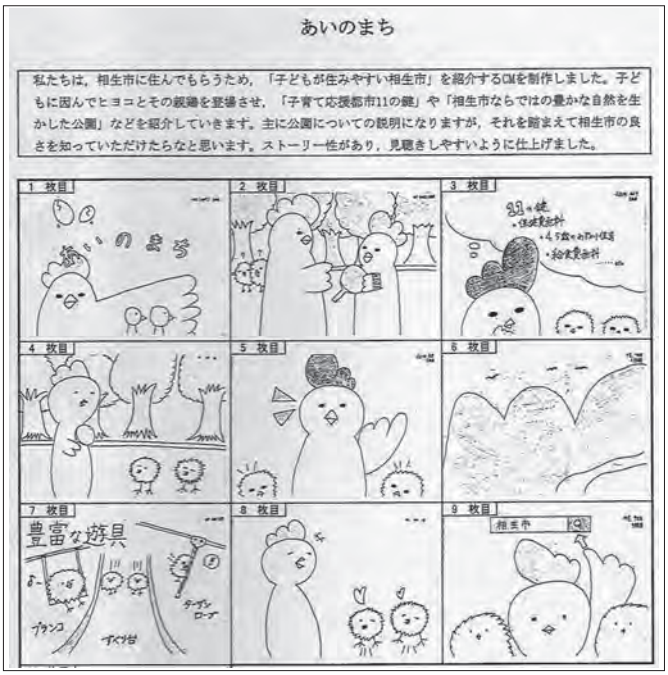
「きっかけを与えられてから動くのではなく、次第に自らボランティア活動に参加するなど、主体的、積極的な姿が見られるようになっています」（荒内先生）

図1　1学年「総合的な学習の時間」の進め方

導入		グループ探究										まとめ
4月	5月	6月		7月		9月	10月		11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション	相生市職員講演	グループ分け	テーマ決め	資料収集	主張提案検討	ポスター下書き	ポスター清書	ポスター発表	CMシナリオ	CM下書き	CM清書	CM発表	全体発表

＊学校資料を基に編集部で作成。

図2　生徒が作成した相生市の紙芝居形式のCM（例）



ポスター発表では、相生市職員から「若い世代の目線」と「具体的なアイデア」を望んでいることが伝えられていた。それを踏まえて、各グループはCMのシナリオを検討し、紙芝居の形でアイデアを表現して発表した。
＊学校資料をそのまま掲載。

定期考査で出題の10%程度を思考力等を測る問題に

思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業や定期考査の改善にも着手した（**P.16図3**）。進路指導部長の桑田卓郎先生は、こう述べる。

「数学科では類題の解法を説明し合ったり、体育科ではハードルをうまく跳ぶ方法を話し合ったり、各教科・科目の特性を生かしながら、ペアやグループなどの協働学習を取り入れるケースが多く見られます」

定期考査では、10%程度の配点を思考力・判断力・表現力を測る問題とすることをルールとした。「大学入学共通テスト」の試行調査が行わ

れた11月以降、その出題形式に合わせた作問も意識している。

「英語科では、世界史担当の教師と相談し、世界史に関連したトピックの問題を出すなど、教科間の連携も進みつつあります」（荒内先生）

それらの授業の指導案・教材、定期考査の問題は、職員会議やパソコンの共有フォルダーを活用して全教科・科目で共有し、全校の組織的な取り組みとなるようにしている。

授業内外の多様な学びで英語の4技能を育成

英語科では、大学入試における英語4技能の評価を見据えた指導改善も進めている。特に「話す」「書く」を苦手とする生徒が少なくないため、自分の意見を英語で発信するペアワークなどを充実させた。英語科主任の岸本由樹先生は、こう説明する。

「十分な量を発信させようとしていますが、一方でどこまで正確性を求めるかを、英語科でALTも交えて議論しています。正確性を求めすぎると、生徒はそれを気にして話したり書いたりすることをためらってしまいます。英語の資格・検定試験の採点結果なども参考にしながら、指導の方向性を見定めていきます」

毎日の昼休みに、ALTと会話する場を設定。参加者には成績に加点する仕組みを導入したところ、1年生のほぼ全員が参加した。さらに、3月には他校のALT10人の協力も得て、「English Day」を実施。ALTは出身国について、生徒はグループごとに日本文化について、それぞれプレゼンテーションした。

「大学入学共通テスト」の枠組みで実施する民間の英語の資格・検定試験への対応としては、19年度に「GTEC」を1・2年生全員が受検し、3年生は希望者が受検する。受検前には、授業で「GTEC」付属の問題集を活用するなど、出題形式に慣れる場も設ける計画だ。

自身の内面の変化を捉えて、活動を振り返らせる

ポートフォリオの構築も、18年度から始めた。同校では、生徒の主体性をさらに高めようと、5年程前から、体育祭や文化祭などの学校行事を生徒主体の運営で行ってきた。18年度はそれを一歩進めて、生徒が各活動において自分の役割を踏まえた自己評価を行い、担任がコメントを返す「生徒活動報告書」を取り入れた。それは、学校行事のほか、部活動、ボランティア活動など、活動ごとに記録するよう指導している。

「活動の振り返りとともに、以前の自分と比べた変化を捉えて書くように伝えています。活動の成果というと、成績やアウトプット物に目が向きがちですが、『○○が苦手だと分かり、次はこう頑張りたい』といった気づきを得ることも大きな成果だと、生徒に話しています」（荒内先生）

「生徒活動報告書」は、教師用の記入用紙もある。学校行事や部活動などにおける生徒の印象的な姿を記入し、生徒の様子を教師間で共有しやすくするためだ。

また、「マナビジョン」のポートフォリオ（＊1）も併用して、探究学習の振り返りなども記録させている。今後は「JAPAN e-Portfolio」（＊2）との連携も進める考えだ。

組織的に取り組むためのグランドデザインを作成

1学年団の新たな挑戦が進むにつれ、西校長は、もっと組織的な動きにする必要性を感じたと語る。

「大学入試改革や次期学習指導要

図3　各教科の授業改善（抜粋）

教科	内容
国語	・授業のテーマに基づいた小論文作成 ・読みの解釈を比較し、発表 ・百字要約、百字感想
地理歴史・公民	・資料、写真、絵画、グラフなどを読み取り、当時の状況を説明 ・新聞記事の各社比較、その記事の背景や理由の考察 ・株価動向の背景説明
数学	・類題の作成、定期考査予想問題とその解答の作成 ・図やグラフを用いて説明する機会の設定 ・発展問題にグループで取り組み、解答を発表 ・演習問題の解答の板書
理科	・自然現象の理由を説明
英語	・新しい単元に入る前の、その内容にかかわる授業前テストを実施 ・学習内容を自分の言葉で再表現（ストーリーリテリング） ・パラグラフごとのタイトル作成 ・本文全体を俯瞰する質問 ・意見英作文をペアやグループで添削し合う ・イラストや写真を英語で説明
その他	・オリジナルの準備運動や集団行動演技の発表（体育） ・環境問題についてグループごとにプレゼンテーション（保健） ・プレゼンテーションソフトを利用した発表（情報）

＊学校資料を基に編集部で作成。

＊1　進路・進学応援サイト「Benesse マナビジョン」において無料で利用できる e ポートフォリオ。　＊2　一般社団法人教育情報管理機構が文部科学省より「JAPAN e-Portfolio」の運営を許可されて運営する高校 e ポートフォリオ機能、大学出願ポータル機能を有したサービス。

図4 相生高校の「グランドデザイン2018」

教育目標 ◎自ら考え、主体的に学ぶ意欲・態度を養う ◎自らの考えや意見を述べ、表現力を育む ◎自らの頭で考え、創造する力を培う

↑

育てたい生徒像 ◎確かな学力を身につけた生徒 ◎志を抱き夢に挑戦する生徒 ◎伝統と文化を大切にし、「豊かな心」を持った生徒

↑

育てたい資質・能力 ❶基礎的な知識・技能 ❷思考力・判断力・表現力 ❸主体性・協働性 ❹課題解決能力 ❺コミュニケーション能力 ❻豊かな心

学校行事・LHR
- 生徒主体の学校行事運営❸❺❻
- 体育大会と文化祭❸❺❻
- 大学や研究施設訪問❶❷❹
- 国際理解教育講演会❶❷❺❻
- 神戸市外国語大学音読講義❶❺
- 神戸大学国際交流❷❸❺
- 宿泊研修❶❷❹❺
- 相高生フォーラム❷❸❹❺

英語
- 思考力問題の作成❷
- 学年統一朝テスト❶
- 補習や土曜講座等❶
- ALTの活用❷❺
- 検定への挑戦・English Day❷❺
- 英語による発表活動❷❺
- ペアワークやグループワークの実施❷❸❹❺ など

理科
- 思考力問題の作成❷
- 補習や土曜講座等❶
- 課題研究と発表❷❹❺
- 実験実習考察の実施❶❹
- 科学イベントへの参加❷❸❹
- 数学理科甲子園出場❷❸❹

数学
- 思考力問題の作成❷
- 学年統一朝テスト❶
- 補習や土曜講座等❶
- 習熟度授業の充実❶❷
- 課題研究と発表❷❹❺
- 生徒による解答解説❶❷❸

地理歴史・公民
- 思考力問題の作成❷
- 補習や土曜講座等❶
- 映像と実物教材の鑑賞❶❷❹
- 資料を活用した授業❶❷❹
- フィールドワーク❷❸❻

国語
- 思考力問題の作成❷
- 学年統一朝テスト❶
- 補習や土曜講座等❶
- 習熟度授業の充実❶❷
- 読書活動❷❺❻
- 発表機会の設定❷❹❺
- グループ学習❷❸❹❺

校外への情報発信
- 学校説明会
- 学校案内・リーフレットの作成・配布
- いつでもオープンハイスクール
- ホームページの更新
- 学年通信、保健だより、図書館だより発行❸❺
- 生徒による母校訪問❸❺
- PTA会報、同窓会報発行

大学入試制度改革への対応
- 思考力問題の作成❷
- 主体的・協働的学び❷❸
- 英語4技能の伸長❷❺
- 活動記録の蓄積❸
- 職業・学部・大学ガイダンス❶❷
- 進路講演会❸
- 公開授業❶❷
- 「大学入学共通テスト」に対応した学習・指導方法の研究❶❷❸❹

総合的な学習の時間
- 進路学習❷❸❹
- 探究活動❷❸❹❺
- グループワークとフィールドワーク❷❸❹
- プレゼンテーション❷❺

芸術
- 作品制作・発表❷❸❻
- 表現方法の理解と活用❷❺
- 作品の鑑賞❻
- 豊かな情操の育成❻

情報
- プレゼンテーション❶❷❸❹❺
- 情報モラルの獲得❶
- 情報収集と整理❶❷
- ビジネスソフトの習得❶

家庭
- グループ学習❸❹❺
- 食育指導❶❻
- ふれあい保育❺❻
- 実習体験❶❺❻

保健体育
- 集団行動を通した協調性の養成❻
- 体育大会での連帯感の養成❸❺❻
- マラソン大会での達成感の養成❻
- 選択体育での自ら学ぶ力の養成❸
- 発表機会の設定❷❺ など

地域連携
- 相生市と連携した探究活動❷❸❹❺❻
- 様々なボランティア活動❸❻
- 相生市歴史巡検・歴史マップ作成❷❸
- ふれあいあいさつ運動❸❺❻
- 通学路清掃❻
- 矢野川水生生物調査❷❸❹❻
- おもしろ科学実験教室❷❸❺❻

部活動
- 周囲への感謝の気持ち❻
- マナーの向上とルールの遵守❻
- 協調性と連帯感の醸成❻
- 競技力・技術力・表現力の向上❶❷
- 目標設定とそれを超える努力❸❹
- 大会や発表会への積極的参加❸❻

ひょうご学力向上サポート事業～新たに実施される「大学入学共通テスト」に対応した学習・指導方法の研究～

◎基礎基本の定着と幅広い学力の育成 ◎個に応じたきめ細かな学習指導 ◎一人一人の高い志の実現を支援

PTAによる連携・支援
- 各種行事への参加・支援
- 街頭指導
- 文化祭模擬店出店
- マラソン大会炊き出し
- 進路説明会・研修会

＊学校資料を基に編集部で作成。グランドデザインの全体像は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(https://berd.benesse.jp) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」でご覧ください。

領を見据えつつ、本校の教育目標を達成するためには、学校全体で生徒への育成を目指す資質・能力を共有し、あらゆる教育活動を充実させる必要があると考えました。そうすることで、教師は自分の指導の意味を一層自覚し、自信を持って指導できるようになると思っています」

西校長は、各教師と意見交換を通して育てたい資質・能力を6つ設定し、それらをどのような活動によって育むのかを、教科・科目や分掌ごとに検討するよう求めた。そうして各教育活動で育成する資質・能力を明らかにし、11月、「グランドデザイン2018」を完成させた（**図4**）。

「これまでの教育活動を通して、生徒にどのような資質・能力を育成していたのかが整理・可視化されました。そのため、『この資質・能力を伸ばしたいから、この働きかけにする』といったように、資質・能力の育成を意識した指導ができるようになりました」（岸本先生）

グランドデザインで学校全体の方向性が共有できたことで、同僚性が一層高まったと、桑田先生は語る。

「教師個人の力量や思いに頼るだけでなく、チームで取り組む雰囲気が強まりました。生徒が学習内容への理解を一層深め、学びの広がりを感じる活動を、教科間で連携してさらに充実させたいと考えています」

保護者の理解と協力が入試改革への対応には不可欠

18年度を終える段階で重要だと感じているのが、保護者への情報提供だ。同校では、保護者会や学年通信で高大接続改革の要点を繰り返し伝え、「大学入学共通テスト」の試行調査の問題も見せて、保護者に自校の取り組みへの理解を図ってきた。

「eポートフォリオの利用や英語の資格・検定試験の受検料の負担などには、保護者の協力が必要不可欠です。保護者の理解を十分得られなければ、これからの教育は難しいと実感した1年間でした」（荒内先生）

今後、毎年グランドデザインを見直しながら指導改善に努めていく。

「1年間の成果や課題をしっかりと検証し、従来の取り組みを精選しつつ新たな試みを積極的に行っていきます。これからも先生方の熱い思いを支え、組織で取り組むことを大切にしていきます」（西校長）